



図 6

非常にちかく、少くとも1日のうちに影響が現われるということであるから、OJ-287は非常に小さな天体であるということがわかる。

OJ-287は、今ここに書いたように、まだ何もわからないといってよい状態だ。しかし現象的には、ぼくたち

の観測からでも、いろいろの性質がわかってきた。2月には、実は、世界中で光、赤外線、電波の観測がOJ-287に対して行なわれたので、もっといろいろの現象が知られるだろう。そこからOJ-287の物理的実体が次第に明らかになっていくと思う。

掲 示 板

一般相対論および重力理論の研究班結成計画について

一般相対論および重力理論 (GRG と略称) の研究が再び盛んになってきました。我国でも、GRG に関係の深い重力波、天体の動力陥没、ブラック・ホール、宇宙論などは、天体核研究グループの人々によってとり上げられ、また非線型場や素粒子との関連のもとに、GRG そのものを研究しようとする人々も増えつつあります。しかし、両分野の研究者間には、情報交換も協力態勢もない現状です。このため GRG 研究班を結成してはどうかという意見が内山龍雄 (阪大・理)、早川幸男 (名大・理)、山口嘉夫 (東大・理)、佐藤文隆 (京大・基研) な

どの諸氏から出されました。国際学会や委員会もできているので、日本でもこれに対応した研究組織を作ることが望まれます。

加入する研究者人数、科研費の獲得の可能性、既存の研究班への影響など、考慮すべき点があると思います。そこで、GRG に興味をもつ研究者諸兄に新研究班への参加を呼びかけると共に、皆様の御意見を聞かせていただきたく、ここにお知らせいたします。なお、今秋 GRG の研究会を基研で開催したいと考えていますので、積極的な参加を希望いたします。(成相秀一)

研究会「近接連星系における Circumstellar Matter」(1973年2月 東京天文台)の集録、送料共150円、御希望の方は東京天文台北村正利までお申込下さい。